

2012年3月期 第1四半期決算 電話説明会 説明概要

「2012年3月期 第1四半期決算 補足資料」をもとに説明いたしましたので併せてご覧ください。
お手元がない場合は、お手数ですが当社 IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。
<http://www.olc.co.jp/ir>

- ・実施日 2011年8月4日（木）
- ・説明者 代表取締役社長(兼)COO 上西 京一郎
執行役員(経理部担当) 高橋 渉

I. 四半期連結損益計算書（第1四半期実績／前年同期）

【連結業績】

当四半期の連結損益計算書を簡単に確認させていただきます。お手元の補足資料 1 ページ左側、上段をご覧ください。

当四半期は、前年同期と比較して、

- ・売上高は、366 億円減の 485 億円、
- ・営業利益は、160 億円減の 30 億円の損失、
- ・経常利益は、161 億円減の 31 億円の損失、
- ・四半期純利益は、100 億円減の 38 億円の損失となりました。

【セグメント別売上高】

セグメント別の売上高とその増減要因をご説明いたします。資料右側上段の「(1) 売上高の状況」をご覧ください。

①テーマパーク事業

売上高は、前年同期比 304 億円、43.5%減の 394 億円となりました。

入園者数及びゲスト 1 人当たり売上高の前年同期差異については、「(2) テーマパーク関連情報」をご覧ください。

入園者数は、震災の影響により、両パークを休園したことに加え、営業再開後も地方からのゲストが減少したことなどにより、前年同期を下回りました。

ゲスト 1 人当たり売上高は、前年同期を下回りました。その内訳を説明いたしますと、チケット収入は、4 月 23 日の価格改定により前年同期を若干上回りました。商品販売収入および飲食販売収入は、地方ゲスト比率の低下により、前年同期を下回りました。

②ホテル事業

売上高は、前年同期比 48 億円、47.2%減の 53 億円となりました。

各ホテルの客室稼働率については、「(3) ホテル関連情報」をご覧ください。震災の影響により、地方からのゲストが減少したことなどから、それぞれ前年同期を下回りました。なお、各ホテルの平均客室単価は、東京ディズニーランドホテル、ディズニーアンバサダーホテルは前年同期とほぼ同様、東京ディズニーシー・ホテルミラコスタは前年同期を若干上回りました。

③その他の事業

売上高は、各事業が震災の影響により前年同期を下回ったことなどから、13 億円、27.1%減の 36 億円となりました。

【セグメント別営業利益】

セグメント別の営業利益とその増減要因について説明いたします。資料右側の中段【B. 営業利益】の表をご覧ください。

④テーマパーク事業

前年同期比 137 億円減の 17 億円の営業損失となりました。これは、売上高が減少したことが要因です。一方、固定費はコストコントロールにより 32 億円、休園期間の固定費を特別損失へ振替えたことにより 31 億円、合計で 63 億円減少しております。科目別に説明しますと、人件費は 28 億円の減となりました。これは、約半分が労働時間や超過勤務手当の減少によるもので、残りが特別損失への振替によるものです。固定経費は 19 億円の減となりました。これは主に販促活動費の減少によるもので、特別損失への振替額は数億円でした。減価償却費は、特別損失への振替により 16 億円減少しました。

⑤ホテル事業

前年同期比 17 億円減の 3 億円の営業損失となりました。売上高が減少した一方、固定費はコストコントロールにより 6 億円、休園期間の固定費を特別損失へ振替えたことにより 6 億円、合計で 12 億円減少しました。

⑥その他の事業

シアトリカル事業やモノレール事業が減益となったことなどから、前年同期比 5 億円減の 9 億円の営業損失となりました。

セグメント別営業利益の説明は、以上となります。

【四半期純利益】

四半期純利益の増減要因について説明いたします。資料右側の【C. 四半期純利益】をご覧ください。

特別損失は、災害による損失として、休園期間の固定費を 38 億円計上しております。

この結果、四半期純利益は、前年同期比 100 億円減の 38 億円の損失となりました。

【参考】四半期別損益比較

つづきまして、当四半期の実績を震災による休園日数がほぼ同じである 2010 年度第 4 四半期と比較して簡単にご説明いたします。資料左側下段にある【参考】四半期別損益比較をご覧ください。当四半期は、2010 年度第 4 四半期と比較し、売上高は減少したものの損益は改善しております。

左側の表の通り、売上高は 130 億円の減収となったものの、営業利益は 16 億円の増益となりました。

この主な要因は、下に記載のとおり、当四半期は、2010 年度第 4 四半期と比較して固定費が約 90 億円減少したことによります。季節要因として、メンテナンスが集中する期間である第 4 四半期よりも第 1 四半期は固定費が少ないことに加え、当四半期は、先ほどご説明の通り、コストコントロールを徹底した結果、大幅な固定費の減少につながりました。

【総括】

総括をさせていただきます。資料右側下段の「総括」をご覧ください。

当四半期実績を前年同期と比較いたしますと、

- ・震災の影響により、東京ディズニーリゾート各施設の営業を休止したことに加え、営業再開後も地方からのゲストが減少したことなどから、テーマパーク入園者数やホテル客室稼働率などが前年同期を下回り、減収となりました。

- ・一方、売上高に応じたコストコントロールやゲスト体験価値に影響を及ぼさないコストの見直しを徹底した結果、固定費の大幅な減少、損失の縮小につながりました。

II. 今後の見通し

現段階では、今期の業績予想を公表しておりませんので、「今後の見通し」について説明いたします。お手元の補足資料 2 ページ左側をご覧ください。

1. 今後の取り組み

「今後の取り組み」について3点説明いたします。

(1) 足元（7月）の状況

足元の状況ですが、着実に回復してきております。

- ・こちらに記載しておりますグラフは、テーマパーク入園者数の対前年同月比推移を表したものです。
- ・入園者数は、第 1 四半期よりも大幅に改善し、7 月は前年レベルに回復しました。首都圏からのゲストが堅調であることに加え、地方からのゲストが回復傾向にあること、新しい夜のショー「ファンタズミック！」や新アトラクションなどが認知浸透したことによります。
- ・ゲスト 1 人当たり売上高は、前年レベルで推移しました。運営再開直後の 4 月は前年を下回ったものの、5 月以降回復し、安定的に推移しております。
- ・各ホテルの客室稼働率は、夏休み以降大幅に改善しております。

(2) コスト効率化に向けた取り組み

- ・ 売上高に応じたコストのコントロールやゲスト体験価値に影響を及ぼさないコストの見直しを徹底した結果、特別損失への振替分を除く固定費は第1四半期実績で前年同期と比較して、約40億円の減となりました。
- ・ 震災の影響など厳しい環境下において、仕事のやり方・考え方を革新し、より筋肉質な企業体質にしていくことにより、今後も利益率向上に努めてまいります。

(3) 集客に向けた取り組み

- ・ 9月4日から2012年3月19日まで、東京ディズニーシー10周年イベントを開催いたします。その他にも、ハロウィーンやクリスマスなど、季節に応じたイベントを展開していきます。
- ・ あわせて、首都圏のみならず地方においてもマーケティング施策を強化してまいります。例年レベルの全国的なテレビCMに加え、東京ディズニーシー10周年をフックとしたプロモーション活動やキャンペーンを展開します。9月以降も着実に回復していくことを目指してまいります。

2. 課題への対応

課題への対応状況について2点説明いたします。資料左側中段をご覧ください。

(1) 電力供給不足

- ・ 夏場も政府の方針に則り、徹底した節電のもと通常運営を行っております。
- ・ また、自家発電設備の追加導入については予定通り進捗しており、8月下旬より本格稼働予定となっております。なお、発電量は約15,000キロワットアワー、投資額は約30億円となります。これにより、当社グループ全体のピーク時における使用電力の15%を十分賄えることとなります。

(2) シルク・ドゥ・ソレイユ「ZED」公演終了

「ZED」の公演を2011年12月31日に終了することを7月25日に発表いたしました。

- ・ 東日本大震災の影響により、同劇場事業を取り巻く環境が大きく変化したことに伴い、当社からシルク・ドゥ・ソレイユ社、ディズニー社にアプローチし、5月から協議を進めてまいりました。そして、改めてショーを継続した場合の事業収支について見直した結果、長期的な事業性を見出すのが困難との見解で双方の判断が一致し、公演の終了を決定いたしました。
- ・ 業績への影響といたしましては、第2四半期決算にて、ショー制作費である長期前払費用約21億円を特別損失として計上する見込みです。なお、劇場施設の活用方法については、今後検討してまいります。

今後も環境変化を見極め、課題に対して迅速に対応してまいります。

3. 業績予想について

業績予想についてですが、第2四半期の集客状況を勘案した上で合理的な業績予想を策定し、第2四半期決算発表時に開示する予定です。

以上